

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 ところせし
① 気恥ずかしい ② 無駄だ ③ 窮屈だ ④ つまらない
- 2 はしたなし
① ふさわしい ② 端正だ ③ 頼りない ④ 不釣り合いだ
- 3 わりなし
① はしたない ② 道理に合わない ③ 取るに足りない ④ むさくるしい
- 4 まさなし
① 理由がない ② 並々でない ③ 憎らしい ④ 見苦しい
- 5 くまなし
① 明白だ ② 繊細だ ③ 暗い所がない ④ 欠ける所のない
- 「B」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 今日はずちなし。右の大臣に任せ申す。（大鏡）
（訳）今日は「」。 （閣議は）右大臣にお任せする。
① 何もない ② どうしようもない ③ おもしろくない ④ 問題ない
- 7 ほかにて酒などまゐり、酔ひて、夜いたく更けて、ゆくりもなくものし給へり。（大和物語）
（訳）（泉の大将は）よそで酒などを召し上がり、酔って、夜がとも更けてから、（左大臣の邸に）「」お越しになった。
① 突然 ② 偶然 ③ わけもなく ④ おおげさに
- 8 中宮も御物の怪に悩ませ給ひて、常はあつしうおはしますを、院もいとど晴れ間なく思し嘆く。（増鏡）
（訳）中宮も物の怪に苦しみなさつて、ずつと「」いらつしやるのを、院もいよいよ心の晴れるときなくお嘆きになる。
① 気味が悪く ② 悩みが多く ③ 熱が高く ④ 病状が重く
- 9 伊成進み寄りて、弘光が手を取りて前さまへ強く引きたるに、うつ伏しに転びぬ。あへなきことかぎりなし。（古今著聞集）
（訳）伊成が進み寄つて、弘光の手を取つて前方に強く引いたところ、（弘光は）うつ伏せに転んでしまった。「」
「ことこの上もない」。
① 弱々しい ② もの足りない ③ あつけない ④ 情けない
- 10 立ち聞き、かいまむ人のけはひして、いとみじくものつつまし。（更級日記）
（訳）（宮仕え先では個室にいても）立ち聞きをしたり、のぞき見をしたりする人の気配がして、とてもとても何かにつけて「」。
① 気がひける ② 耐えがたい ③ 質素になる ④ 慎重になる
- 11 古くよりこの地を占めたるものならば、さうなく掘り捨てられ難し。（徒然草）
（訳）（蛇が）昔からここをすみかとしているのならば、「」土を掘つて（蛇の塚を）お捨てになるのは難しい。
① 今すぐに ② 大げさに ③ 慎重に ④ 無造作に
- 12 心づきなきことあらん折は、なかなかその由をも言ひてん。（徒然草）
（訳）「」ことがあるようなときは、かえつてそのことを言つてしまふ方がよい。
① めつたにない ② 気になる ③ 好意を感じる ④ 気に入らない
- 13 殿上人、地下なるも、陣に立ち添ひて見るも、いとねたし。（枕草子）
（訳）殿上人や、地下である者も、陣に寄り添つて（私たちを）見ているのも、とても「」。
① 見苦しい ② 悲しくなる ③ しゃくにさわる ④ 気になる
- 14 供なる男どもも、いみじう笑ひつつ、「こまだし、こまだし」と差しあへり。（枕草子）
（訳）供の男たちも、ひどく笑いながら、「ここが」「ここが」「ここが」「と（軍に卵の花を）差しあつてい
る。
① おかしい ② ちょうどよい ③ まだまし ④ 不十分だ
- 15 初めより我はと思ひ上がり給へる御方々、めざましきものにおとしめそねみ給ふ。（源氏物語）
（訳）（宮仕えの）初めから自分こそは（帝のご寵愛を受けるはずだ）と自負していらつしやつたお妃方は、（桐壺の更衣を）「」者としてさげすみ憎みなさる。
① 目立ちたがりな ② 身の程知らずな ③ 受け入れられない ④ 気に入くない

【新一年生用】 古文単語330三訂版 P 2 1 2 1 P 2 2 3

- 1 (③)
- 2 (④)
- 3 (②)
- 4 (④)
- 5 (③)
- 6 (②)
- 7 (①)
- 8 (④)
- 9 (③)
- 10 (①)
- 11 (④)
- 12 (④)
- 13 (③)
- 14 (④)
- 15 (④)